

# 福祉を求めめる人々の応援団



## 「ゆうあい」ケア

福祉の店「ゆうあい」

佐藤 秀昭

「ゆうあい」活動を紹介するパンフレットの冒頭には、次のような説明がある。

『『ゆうあい』は、ハンディを持って生まれ、てきた子供であっても、その個性を活かし、必要とされ、この街で豊に暮らしてもらいたいと願う、切なる親の願いから平成八年十月に開設された福祉の店です。まったく民間の手による運営のため、公的な援助は何もありませんが、県内の小規模作業所や福祉施設、また福祉関係団体やグループで製作された作品を販売しています。それは、手作りの作品を通して、作り手の温かい心のメッセージを伝えるお手伝い。市民の皆様には障害や福祉を身近に感じていただき、理解を深めていただくための啓蒙活動として運営されています。』

ここに言う親とは、私のこと。限りなく信じがたい言葉を、息子が生まれたという喜びの日に、医者から聞かされた。仕事も暮らしもこれからという時期に、目の前が真っ暗になってしまった。それから何年かして、少し周りを見るゆとりができた時に、気持ちを整

理した。どこまで行けるか、息子と共に頑張ってみよう。学校、PTA、親の会等々、仕事の都合がつけられる限り、顔を出した。気がつく、親には仲間が、子供には友達がたくさんでき、義務教育も終わった。さあ、これからどうする。とりあえず、子供は小規模作業所に、私は障害者スポーツ推進団体の事務局で活動しながら、この時すでに障害者福祉は自分の家だけの問題ではなく、多くの仲間家族の問題として考えていた。自分の気性がそうさせていたとも言える。

当時、鶴岡市に県内唯一の福祉の店「メッセージ」があった。私は仕事柄、木工や手作りの技術があるから、施設の作品作りの援助もできる。これだと思った。しかし、福祉の店の経営は、店の維持費を生むのがやっとで、人件費は到底無理という話も聞いた。でも、鶴岡にできて山形市にできない訳はない、と開設準備にとりかかる。役所参り、施設巡り、いずれも相手は総論賛成だが、反応は鈍い。もうここまできたら止められない。信じてく

れる人たちとともに、やれるところまで行こうと決めた。山形市八日町に店舗を借り、平成八年十月福祉の店「ゆうあい」開店。

開店すると、山形市民には好評で、常連客もできた。出品施設も、個別訪問のお願いが信頼を生み、少しずつ増加している。さらには販売を手伝ってくれるボランティアも、施設からは入所者も職場訓練に度々来てくれるようになってきた。このように事業の方は、作品の委託販売だけでなく、販売斡旋と取次ぎ、新作品の提案と製作依頼、福祉イベントの開催、各種福祉相談の受け付け、等々と順調に広がってきている。

しかし、店の経営は予想通りの厳しさが続いている。ボランティアさんにわずかな謝礼を支払える程度で、家賃、光熱費を支払えば、人件費充当額は残らない。お手伝いのいない日は、私の妻に店を頼んでいる。これも度重なる大変だが仕方がない。もう限界かなあ。そんな折に、福祉の店を通じて知り合った高齢者から、階段を昇降するのがつらいので手



すりを付けてもらえないかとの相談があった。

建築加工は私の本業だから、二つ返事で出かけていった。話を聞くと、老夫婦にはあまりお金のゆとりがなく、安くできないかとのこと。立派な材料を使わなくても強度も十分な施工はできるよ、と話すとても喜んでくれた。後日、またその人から電話がきた。子

供たちに手すりの話をしたら、自分たちがお金を出すから、あちこちの不便なところを改善したらいいと言われたと、声が明るく弾んでいる。聞いているこちらまで自分の事のようになれなくなって、本当に良かったねえ、と相づちをうっていた。その後、障害や病気の相談、施設の入所の相談などと一緒に、バリアフリーと言われる住宅の改善や増築の依頼まで届くようになった。

私の会社は総合建築業だから、取り引きの専門業者も多い。しかし、「ゆうあい」の店から相談のあった依頼には誰でも良いと言っわけにはいかない。長い付き合いの中で、信頼のおける業者と人物でなければならぬ。自分がその立場になつてみなければ本当の痛みは分からない福祉の世界。でも、心と心のふれあいを大切にする「ゆうあい」の人柄を信じるからこそ、依頼してくれているお客様は絶対に裏切られない。選ばれて施工に行った職人が逆に感激して帰ってくる。それを聞いて、私もまたうれしくなる。

ある日、親しい同業者に相談をした。「ゆうあい」の仕事を引き受けるグループを作らないか。そして、工事費の一部を「ゆうあい」の運営を助ける経費として拠出できないだろうか。二つの問いに彼は意外にあっさり賛同してくれた。人のネットワークが創る、助け合いと福祉ビジネスへの船出である。

## 佐藤 秀昭

総合建設業 佐藤建装常務取締役。1956年1月16日生まれ。山形市宮町2丁目9-31。山形市手をつなぐ親の会理事、小規模作業所はばたき副所長、輝きの親子スポーツ教室障害児(者)機能訓練室代表、山形市勤労者体育施設運営委員、山形県友愛フライングディスク大会副会長などを経て、現在県精神薄弱者相談員、福祉の店「ゆうあい」代表。  
平成5年山形市民総合社会福祉大会表彰。  
福祉の店「ゆうあい」= 山形市八日町2-5-10  
Tel 023-634-3672  
同酒田店 = 酒田市若竹町1-5-3  
Tel 0234-22-0701

STEMは、福祉の店だけでなく、福祉を求める人たちの生活全般の応援団である。事実、登録アドバイザーは医者、教師、法律家、施設職員などが専門知識をボランティアとして提供し、また登録企業などにとっては、現代社会に失われつつある市民と企業の信頼関係を大切にする企業側からのメセナ(企業の社会貢献)として理解をいただいている。利益のみを目的に福祉事業に参入することは、ますます進路を狭くすることになるのではない。厳しい時代だからこそ、商いの基本に立ち返る時期が来たと考えている。

地域の要望から、今年九月に福祉の店「ゆうあい」酒田店が開店することになり、庄内にもこのSTEMが誕生することになった。今、私にとって息子は大切な存在であり、誇りでもある。彼が私をここまで引張って来てくれた。私は、これまで、そしてこれからも、彼から元気をもらっていきたく。よく、私のもとへ生まれてきてくれたと、感謝の念でいっぱいである。